【参考資料】　平成20年度　実績報告（白川町森林組合）

作成日：平成21年4月27日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	33ha	44.23ha	134.0%	H21予定：37ha	
いつ	4月～3月	7月～3月		通年対応を基本とするが、5月中旬～8月末を強化期間とする。	
誰が	集約化担当澤田卓朗	集約化担当澤田卓朗		集約化担当を1名拡充予定	集約化担当2名体制を検討
どういう方法で	個別訪問（10軒） 地区座談会（5回）	個別訪問（9軒） 地区座談会（4回）		施業提案書を積極活用した集約化 地域研修会を積極的に開催して施業地を集約化	

下刈・除伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	1.00ha	0.67ha	67.0%	H21予定：1ha	
いつ	6月	8月		間伐作業との労務調整で効率化	
誰が	森林所有者	森林所有者		森林所有者に作業実施を促す	
どういう方法で	効果の高い時期に実施し	適期に実施し植栽木の成長を促		集約化調整時に除伐必要箇所等再精査	

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用：9ha	利用：11.15ha	123.9%	H21予定：21ha	
	切捨：1ha	切捨：13.13ha	1313.0%	H21予定：2ha	
いつ	4月～3月	6月～3月		梅雨、降雪期間を含めて、出来る限り通年して素材生産	
誰が	素材生産担当藤井博文	素材生産担当藤井博文		素材生産担当藤井博文	2チーム体制を視野に入れ検討
どういう方法で	既設道を起点に作業道を開設し利用間伐	既設道を起点に作業道を開設し利用間伐		地域研修会を積極的に開催し実施箇所をモデルとした新たな施業地を掘り起こす	既設道路周辺に加え新規開設した作業路周辺で素材生産

作業道（路）開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.0m,L=2,000m	W=3.0m,L=2,036m	101.8%	H21予定　W=3.0m,L=3,000m	開設費　W=3.0m　1,500円／m 森林管理路緊急整備事業
いつ	4～6月	6～9月		通年（梅雨、降雪時を除く）開設	
誰が	白川町森林組合	白川町森林組合		集約化担当、素材生産担当	担当者増員と合わせて検討
どういう方法で	設計・施工・管理：森林組合直営	設計・施工・管理：森林組合直営		H22以降に基盤となる規格の高い幹線作業路の追加を検討（高密化）	国新規予算活用等検討

素材生産	新規チーム設立（H20）	内容		
新規構築作業システム（機械の組合せ、種類・規格・台数）		伐倒：チェンソー　→　集材：（新規）ウィンチ付きグラップル(0,25)　→　造材：チェンソー　→　積込・運搬：（新規）フォワーダ(3.0t)　→　トラック(8t)		
素材生産チーム数（チーム員数）	実施前　→　実施後 （H19）　（H20）	0	→	1チーム（4人/班）
実稼働日数（日）		0		109
素材生産コスト（㎥／人・日）		0		2.94
その他				

年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	800m3	882m3	110.3%	森プロ関係のみ （新規導入機械による素材生産）	集約化を着実に進め素材生産を確実に実施する。モデル団地集約化を契機に町内全体に事業を普及させる。
モデル団地外	0m3	400m3	–		
合計	800m3	1282m3	160.3%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み			
計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成（1名）	森林施業プランナー育成研修出席（1名）施業提案書の活用（3件）	森林施業プランナーの育成（人数） 森林施業プランナーによる施業提案書の活用（件数）	施業提案書の検証とブラッシュアップを図る。
先進地視察（2回）	現場作業班の知識を補うため研修会等でアドバイスをもらい実践(3回) 作業路開設延長102%の実績を確保	先進地視察数（回数）	集約化施業に関する視察等研修会に積極的に参加し、課題克服に関する履歴を残す方法を検討する。
モデル団地外での普及・啓発	集約化現地説明会を開催（2回） 当初間伐予定のない箇所で400m3の素材生産量を確保	集落座談会、現地説明会の出席者に対するアンケート実施数（枚数）	集約化現地説明会の開催数を倍増させ、モデル林及び進行中の現場を見学してもらい、集約化・団地化のメリットを実感してもらう。
	団地の中心部にモデル林を設置（1箇所）モデル林周辺の所有者の長期施業受託契約（10年間）の締結（5件）	森プロモデル林の設置数（箇所数） 長期施業受託契約数（件数）	
素材販売流通システムの確立及び安定供給（森プロ取扱量の50%達成目標）	県森連のネットワークシステムによる素材の試験出荷・販売を実施	素材販売流通システムでの流通実績（森プロ取扱量の割合）	県内・地元製材業者に直送販売、県内・地元市場での入札販売、県森連のネットワーク販売など各種販売方法試行し、最も適した販売・流通システムの確立を目指す。